

西公民館

松前校区

愛護部主催キャンプ

7月19日(土)、20日(日)の2日間、西条市石鏡ふれあいの里でキャンプを行いました。

トラック4台に薪、鉄板、飯ごう、なべ、食料品などを積み込みました。そして大型バス2台には保護者31名、子どもたち91名の総勢122名が乗り込み出発しました。過保護にならぬよう異年齢の子どもを15組の班に編成し、自主的活動によるふれあいに主眼を置きました。

参加した子どもたちの声を聞いてみました。



▲子どもたちが大いに楽しんだ川遊び

小学校3年生 横山 愛

はじめてさんかして、よかったですと思いました。なぜかというとグループのみんなとなかよくできたからです。それと川遊びです。友だちと川でいっしょに遊んで楽しかったです。あとはスイカわりです。なぜかという、みんなが「右」とか「左」とか言ってくれたからです。またこんども行きたいです。

小学校5年生 三原 葵

わたしが一番楽しかったのは、きもだめしです。始めは、どんなお化けが出てくるか楽しみでした。でも、本物のゆうれいが出ないか心配でした。歩いて行くと、最初に坂の所からゴジラの仮面をかぶった人が出てきて、いきなり「わあい」と言うので、びっくりして逆もどりしてしまいました。

次は神社に行ったら変な音楽が流れて、みんながびっくりして逃げている時、私はこ



▲元気の源! おいしく、楽しいバーベキュー

けてしまいました。帰りもお化け(人)?が3人ぐらい出てきました。少しこわかったけれどもおもしろかったです。

小学校6年生 山本 千加

私は、今年はじめて参加しました。最初は、「どんなことをするのかなあ。」と思ったけれど、川遊びをしたり、バーベキューをしたり、とても楽しかったです。でも、その中で一番楽しかったのは、川で遊んだことです。「魚をつかまえるぞ!」とがんばりましたが、ぜんぜんとれませんでした。ほかに、とびこんだりして、とても楽しかったです。また行きたいです。

補導センターだより

かわいい子に旅をさせるために

北伊予中学校

小笠原 洋司

「子は親の鏡」と言います。顔形が似ているだけでなく、親の言動のまねもしているのです。私も我が子を見ていて、

良いところはあまり似ないのに、悪いところばかり似てしまふものだと感じています。もっと良いところが似ればいいのに、パートナーの悪いところが似たのだろうかと思っても仕方ありません。放っておくわけにはいきません。

親がなんとかしないと…。 「かわいい子には旅をさせろ」ということわざがあります。今も親としては納得し、必要なことと思っておられるでしょう。社会でたくましく生きていけるようにと願っているにちがひありません。しかし、現存の社会状況では、旅に出すと何がおこるかかわらないという不安があります。

つまり、準備をしてから旅に出す必要があるのです。家庭で常識や礼儀作法を教え、しっかりと躰をする。家から出た場所で、その子が教えられたことを生かせる。そして、家庭以外から学ばなければいけないことを素直に吸収し、善悪の判断基準を自分で決められる。このようなことが準備だと私は考えています。

つまり、「外(社会・世間)は内(家庭)とは違う」「社会は、子どもだけでなく、親の常識を問われる場所」だという自覚を、親がもつべきではないかと思えます。

かわいい子が旅をして成長するためには、親がどれだけ関わって教えることができるか、躰けることができるか、まず前提になるのではないのでしょうか。

かわいい子が旅をして成長するためには、親がどれだけ関わって教えることができるか、躰けることができるか、まず前提になるのではないのでしょうか。

かわいい子が旅をして成長するためには、親がどれだけ関わって教えることができるか、躰けることができるか、まず前提になるのではないのでしょうか。